

2023年3月期及び2024年3月期の業績説明

津軽びいどろ



2023年4月26日



石塚硝子株式会社

ISHIZUKA GLASS Co., Ltd.

1. 2023年3月期決算内容

- 連結業績ハイライト
- セグメント別売上高、営業利益
- 連結貸借対照表
- 連結キャッシュ・フロー

2. 2024年3月期業績予想について

- 通期業績予想
- 連結業績推移
- セグメント別売上高

連結業績ハイライト

- ✓ ウクライナをめぐる地政学的問題や欧米諸国と日本の金融政策の違いなどから為替が急激に円安に進行したことにより、エネルギー価格をはじめとする諸資材価格が高騰。これに対する一部値上げとグループを挙げてのコスト削減に取り組むものの、前期対比でLNGは約8割、電力は約5割値上がりしたこともあり減益となる。
- ✓ 親会社株主に帰属する当期純利益については、ガラスびん事業の生産拠点である姫路工場の生産停止に伴う損失を特別損失に計上したことにより大きく減益。
- ✓ なお、配当については、当初予想から5円増配の1株当たり35円とさせていただくことを本日開催の取締役会で決定致しました。

(単位：百万円)

項目	2021/3月期 実績	2022/3月期 実績	2023/3月期 実績	対前期比		対前々期比	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高 ※1	64,940	69,384	56,749	▲12,635	－	▲8,191	－
営業利益	852	2,612	2,210	▲402	▲15.4%	1,358	159.4%
経常利益	1,153	2,791	2,317	▲474	▲17.0%	1,163	100.8%
当期純利益 ※2	▲3,023	2,254	252	▲2,001	▲88.8%	3,275	－
配当金 (円)	0	45	35	▲10	－	35	－

※1 当期より「収益認識に関する会計基準」等を適用しております。これに伴い、売上高は当該会計基準等適用前と比較して大きく減少しているため、増減率は記載しておりません。

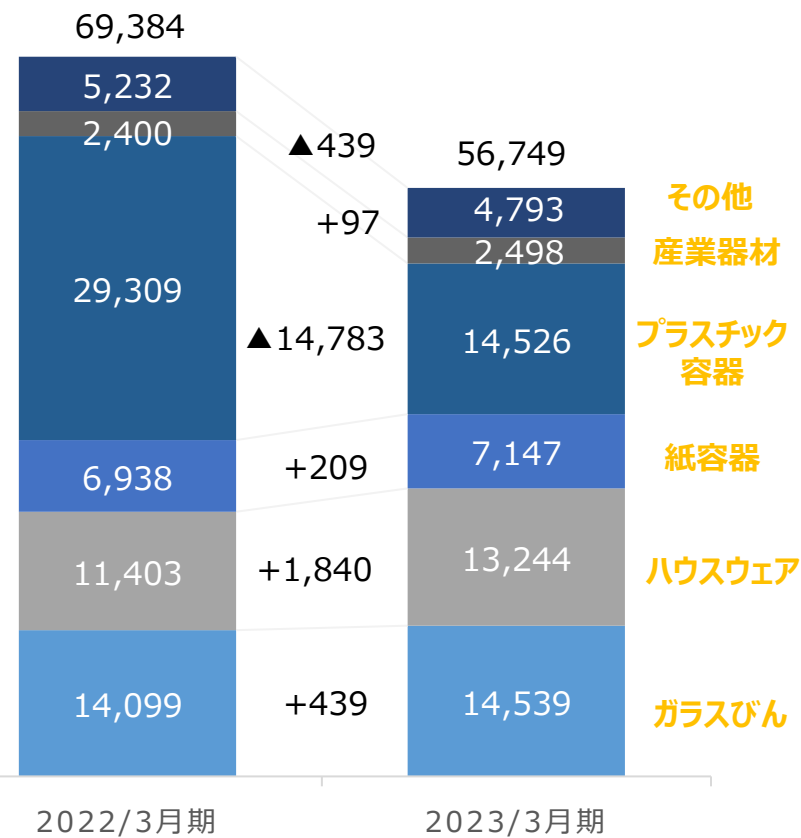
※2 親会社株主に帰属する当期純利益

2

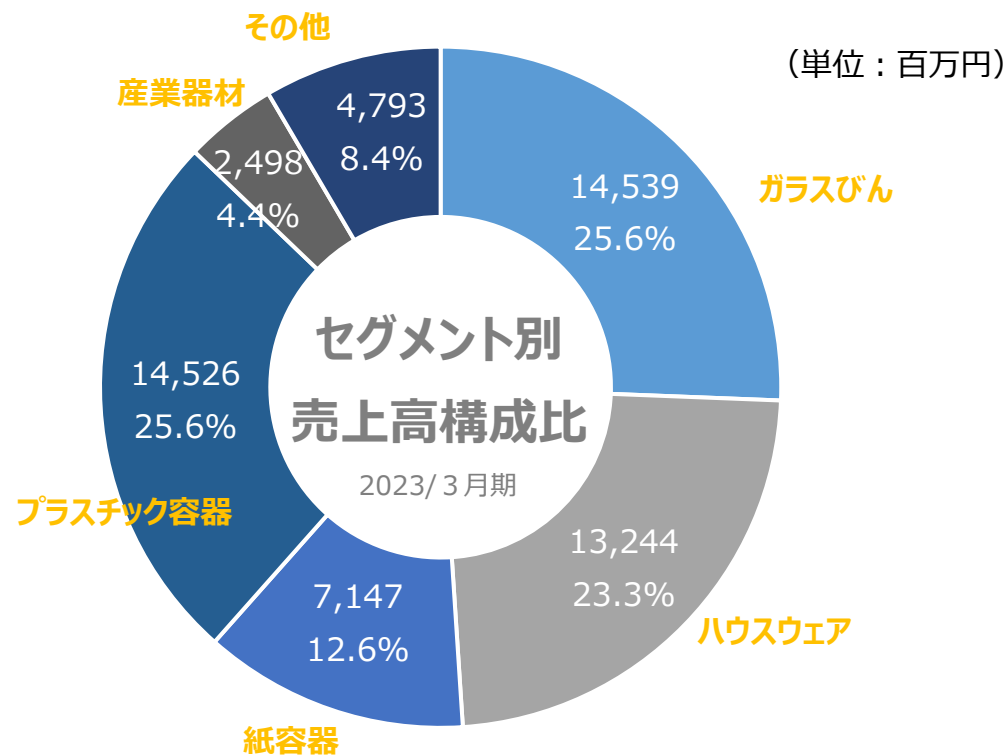
セグメント別売上高

売上高

- ガラスびん関連
 - 紙容器関連
 - 産業器材関連
 - ハウスウェア関連
 - プラスチック容器関連
 - その他
- (単位：百万円)



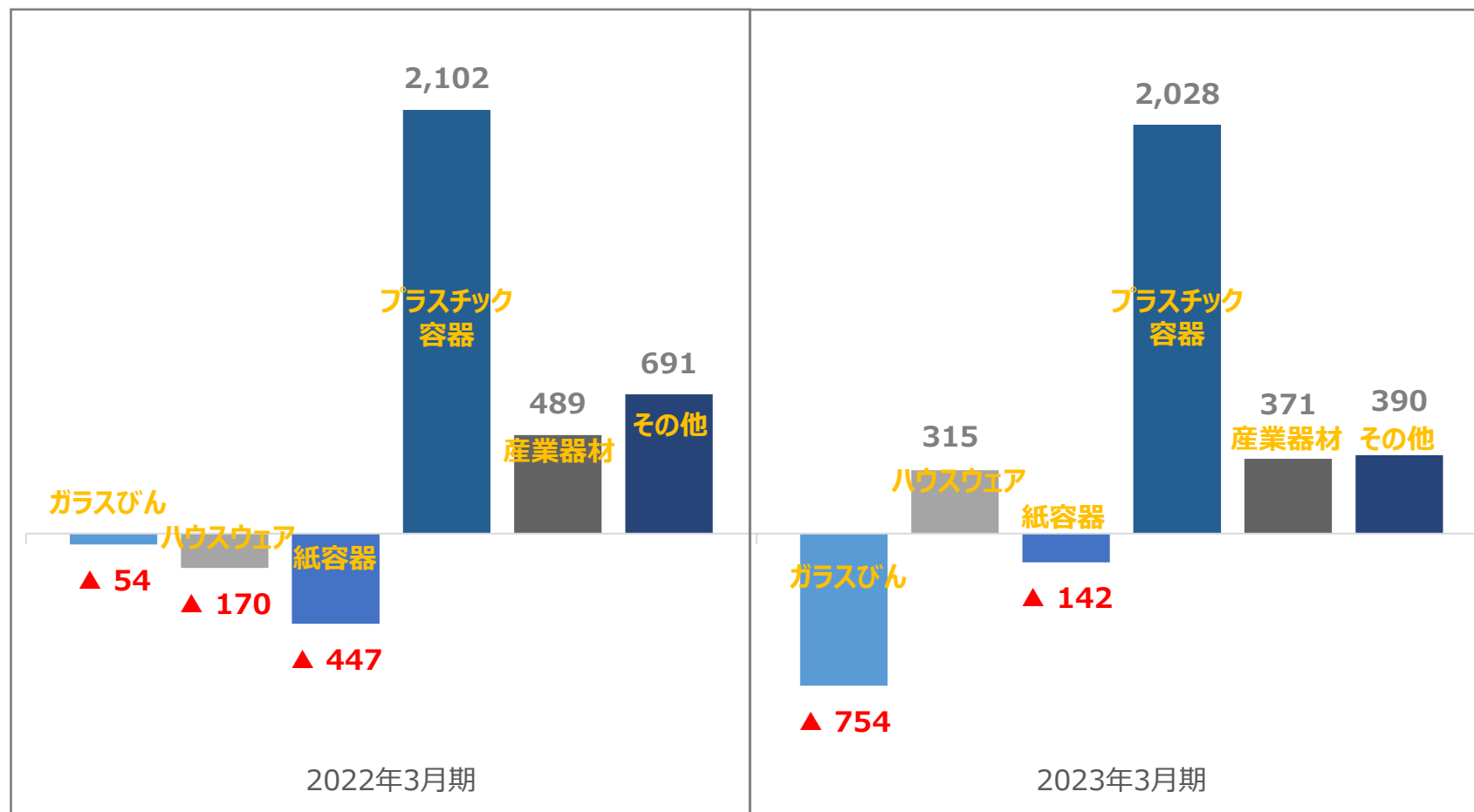
- ガラスびん関連
 - 紙容器関連
 - 産業器材関連
 - ハウスウェア関連
 - プラスチック容器関連
 - その他
- (単位：百万円)



セグメント別営業利益

(単位：百万円)

■ ガラスびん関連 ■ ハウスウェア関連 ■ 紙容器関連 ■ プラスチック容器関連 ■ 産業器材関連 ■ その他



セグメント別売上高

ガラスびん関連事業

売上高14,539百万円（前期比－％）

- ✓ 飲食店向けの需要が回復するとともに、エネルギー価格をはじめとした諸資材価格高騰に対する製品への価格転嫁が徐々に市場に浸透



ハウスウェア関連事業

売上高13,244百万円（前期比－％）

- ✓ ガラス食器は、企業向けの業務用品及び景品の受注と「アデリアレトロ」などの一般市場向けの販売が堅調に推移
- ✓ 陶磁器は、海外のエアライン向けの受注が大きく回復



セグメント別売上高

紙容器関連事業

売上高7,147百万円（前期比－％）

- ✓ 製品の主原料である原紙の調達コスト高騰に対する販売価格是正の取り組みを推進



プラスチック容器関連事業

売上高14,526百万円（前期比－％）

- ✓ P E Tボトル用プリフォームは、最終製品の価格改定の影響もありましたが、行動制限の緩和や夏場の猛暑の影響もあり、主要ユーザーからの受注が増加し過去最高本数の出荷を記録



セグメント別売上高

産業器材関連事業

売上高2,498百万円（前期比－％）

- ✓ 調理器用トッププレートの受注が堅調に推移



その他事業

売上高4,793百万円（前期比－％）

- ✓ 抗菌剤は、海外からの旺盛な需要が落ち着き、世界的なインフレ等の影響もあり出荷が伸び悩む
- ✓ 金属キャップは、酒類及び医薬品向けともに堅調に推移



連結貸借対照表

(単位：百万円)

連結貸借対照表の主な変動要因

流動資産 42,862 (前期比+2,215) 有償受給に係る資産+3,136、現金及び預金+935、 受取手形及び売掛金+695、商品及び製品▲2,946	流動負債 22,866 (前期比▲3,693) 短期借入金▲4,390、未払金+1,096
固定資産 43,514 (前期比+2,267) 有形固定資産+2,748	固定負債 34,920 (前期比+8,247) 長期借入金+10,839、リース債務▲755、 社債▲539
繰延資産 159 (前期比▲44)	純資産 28,749 (前期比▲114)
総資産合計 86,536 (前期比+4,439)	負債及び純資産合計 86,536 (前期比+4,439)

自己資本比率 29.0% (▲1.8%)

～トピックス～

- ✓ 新たに姫路工場に建設するPETボトル用プリフォーム工場の設備投資に係る資金調達を実行し、長期借入金が増加（CFの影響についてはP.9参照）。
- ✓ 全体的に資産及び負債が増加したことにより、自己資本比率は1.8ポイント減少の29.0%。

連結キャッシュ・フロー

項目	2022/3月期 実績	2023/3月期 実績	増減	(単位：百万円)
営業活動によるCF	4,093	1,891	▲2,201	
税金等調整前当期純利益	3,408	1,025	▲2,383	
減価償却費	3,696	3,254	▲442	
運転資本の増減額（▲は増加）※	▲1,653	266	1,920	
工場閉鎖関連損失の支払額	—	▲632	▲632	
法人税等の支払額	▲567	▲1,344	▲776	
その他	▲790	▲678	112	
投資活動によるCF	▲548	▲5,593	▲5,045	
有形固定資産の取得による支出	▲2,194	▲5,788	▲3,594	
有形固定資産の売却による収入	1,801	24	▲1,777	
その他	▲155	170	326	
財務活動によるCF	▲1,868	4,336	6,205	
短期借入の増減額（▲は減少）	2,110	▲5,270	▲7,380	
長期借入・社債の発行による収入	80	12,700	12,620	
長期借入の返済・社債の償還による支出	▲2,008	▲1,679	329	
セール・アンド・リースバック取引による収入	385	349	▲35	
リース債務の返済による支出	▲1,656	▲1,552	104	
長期未払金の返済による支出	▲750	—	750	
その他	▲27	▲211	▲183	
現金及び現金同等物	5,325	6,069	744	

※ 売上債権の増減額、棚卸資産の増減額及び仕入債務の増減額の合計

～トピックス～

- ✓ ガラスびん事業の生産拠点である姫路工場の生産停止に伴う工場閉鎖関連損失の支払が発生したこと、並びに法人税等の支払額が増加したことにより営業活動によるCFは減少。
- ✓ PETボトル用プリフォーム新工場の設備投資について、主に長期借入金により設備資金を確保したことにより財務活動によるCFが増加。また、この設備投資に係る一部支払が発生したため、投資活動によるCFの支出額が増加。

1. 2023年3月期決算内容

- 連結業績ハイライト
- セグメント別売上高、営業利益
- 連結貸借対照表
- 連結キャッシュ・フロー

2. 2024年3月期業績予想について

- 通期業績予想
- 連結業績推移
- セグメント別売上高

通期業績予想

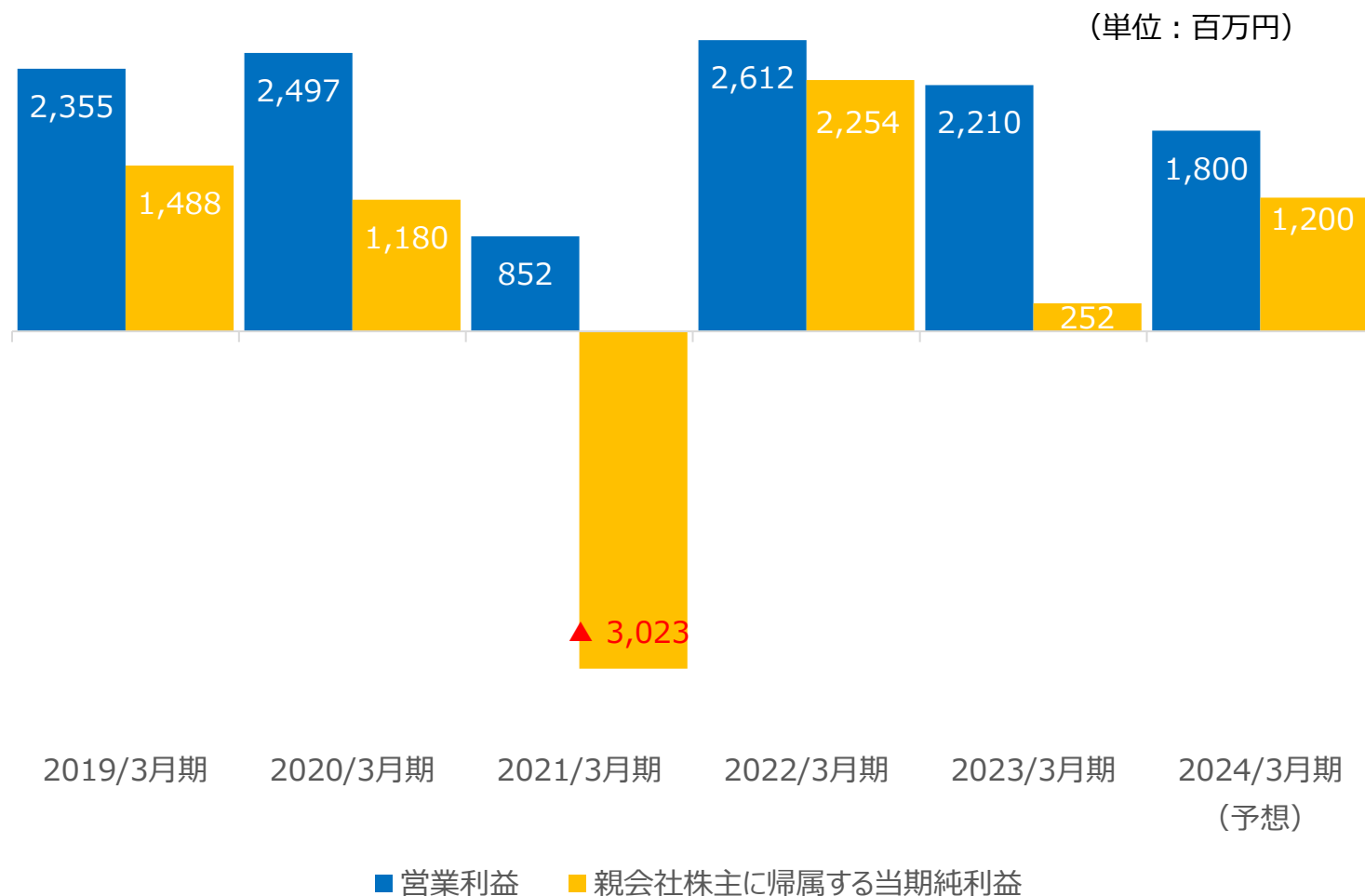
- ✓ 売上高57,000百万円、営業利益1,800百万円、親会社株主に帰属する当期純利益1,200百万円を予想。
 - エネルギー価格をはじめとする諸資材価格の高止まりについては、それに対する販売価格改定の取り組み並びに製造工程の合理化を通じたコスト低減施策を実行してまいりますが、プラスチック容器関連のPETボトル用プリフォーム新工場の立ち上げの影響もあり、営業利益及び経常利益は減益となる見通し。
- ✓ 配当については安定的な配当の継続と業績を鑑みて、前期比5円増配の40円を予想。

(単位：百万円)

項目	2022/3月期 実績	2023/3月期 実績	2024/3月期 業績予想	対前期比		対前々期比	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	69,384	56,749	57,000	250	0.4%	▲12,384	—
営業利益	2,612	2,210	1,800	▲410	▲18.6%	▲812	▲31.1%
経常利益	2,791	2,317	1,500	▲817	▲35.3%	▲1,291	▲46.3%
当期純利益 ※	2,254	252	1,200	947	375.8%	▲1,054	▲46.8%
配当金 (円)	45	35	40	5	—	▲5	—

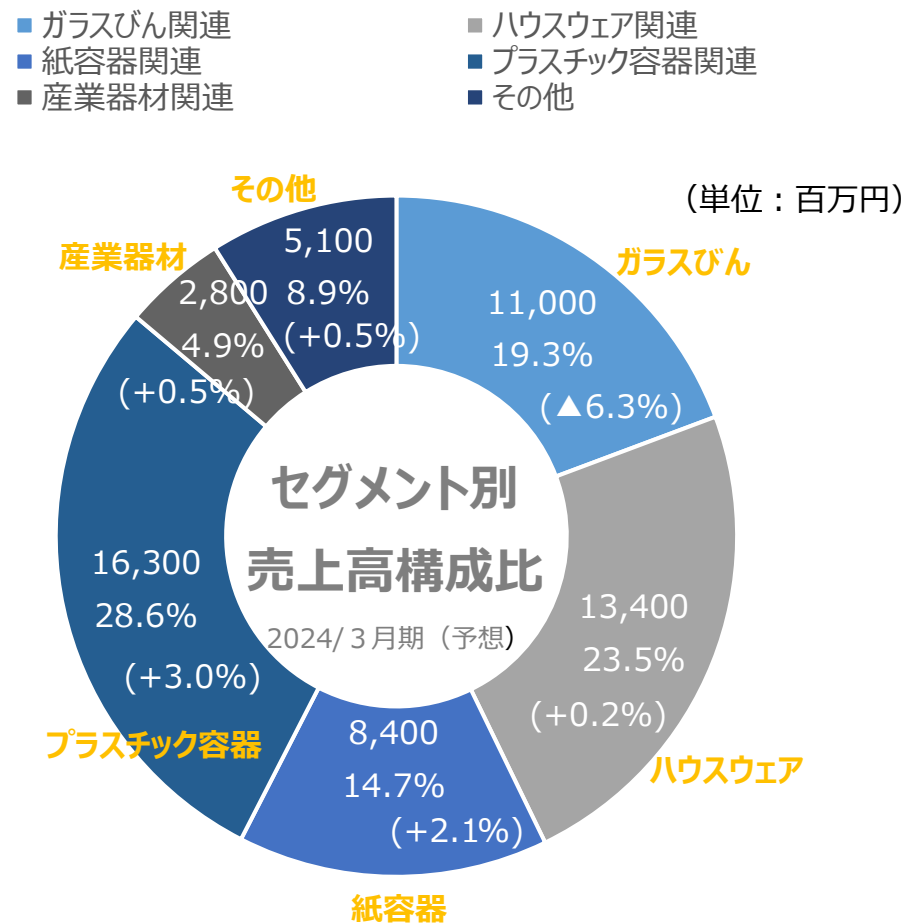
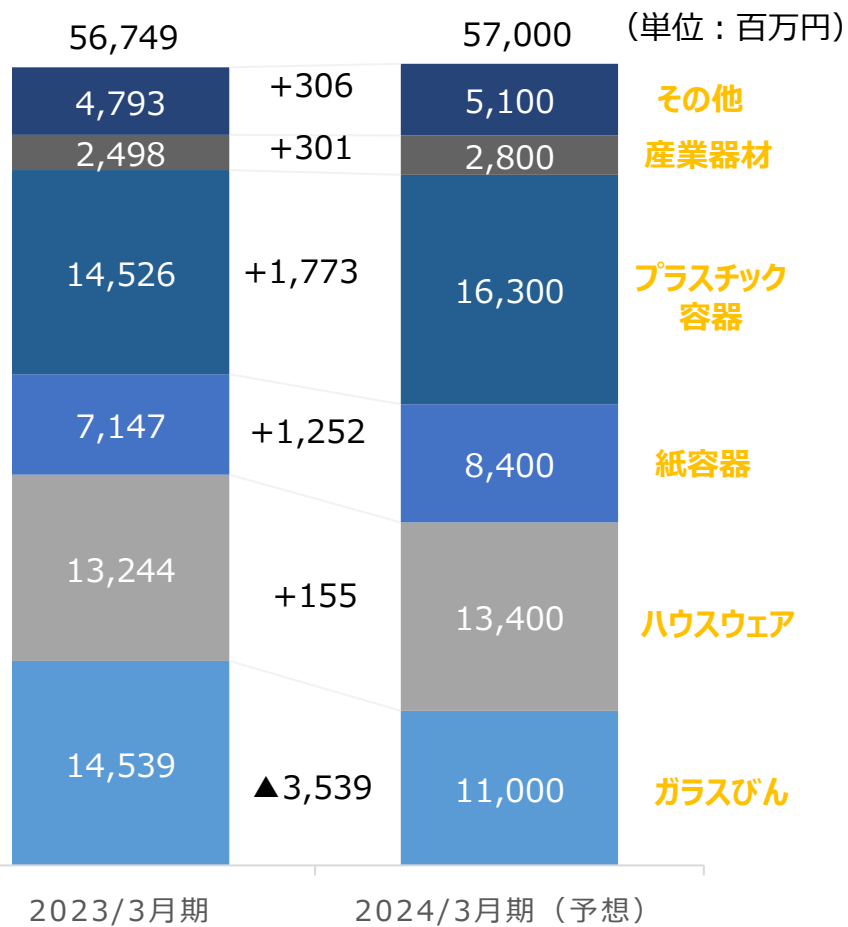
※ 親会社株主に帰属する当期純利益

営業利益及び 親会社株主に帰属する当期純利益



セグメント別売上高

- ガラスびん関連
- 紙容器関連
- 産業器材関連
- ハウスウェア関連
- プラスチック容器関連
- その他



() 構成比率前期増減

本資料についての留意事項

- 本資料は金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に記載されている将来の予測等は現時点で入手された情報に基づくものであり、市況、競業状況等、多くの不確実な要因による影響を受けます。
- 本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。
- 本資料利用の結果生じた、いかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。